

# 広報いわたき

●発行者●

岩滝まちづくり  
協議会

TEL 77-9877

FAX 77-9409

メール

iwataki@hidataya.  
yama.ne.jp



## 災害復旧工事進む



2年前の広報いわたき25号で、昭和33年の大水害を取り上げた時、砂田義則さんの「昔の大災害を経験した者にとって、岩滝のように山の多いところでは雨は絶対油断できんこと」という言葉と、当時の被害のお話を掲載しましたが、日頃から町内や隣近所で防災について相談して災害に備える態勢をとっておくことが大切だと分かっているにもかかわらず思うように進んでいない現状です。

そんな中、皆様には2回目の防災アンケートにご協力いただきありがとうございます。結果がまとまりましたのでお送りします。

読んでくださって、さらに御意見をいただければありがたいです。令和3年度は、「防災体制の整備」が町内会・岩滝まち協の大きな課題となります。

## 防災士養成

アンケートの回答の中に「各町内に一人防災士を育成する。」というご意見がありました。

ちょうどそのとき市役所から、防災士養成講習会を開催するののでぜひ町内で進んで希望してほしいと連絡がありました。

岩滝まち協としても、今後の

地域の防災に貢献してもらえ方がほしいと思っていたところ、

滝 町 川尻忠良様  
岩井町 取替惣一様

が手をあげて下さり、4日間にわたる長い研修を受け、防災士の資格を取られました。

今後、研修会、防災体制にかかわる会議、避難訓練などが必要になってきますので、助言をよろしくお願い申し上げます。  
生井町にも1名防災士になっていただける方がほしいのでよろしく申し上げます。

## フォトコンテスト感想

コロナ禍によりまち協の事業がほとんどできない中、先日岩滝フォトコンテストに応募された作品の展示会が終了しました。エブリ東山・市役所・高信三福寺支店での展示会でいただいた感想をいくつか紹介します。

・心なごみました。どれも目を見張る様な出来栄でした。

・今年は災害もあり大変でしたが、素晴らしい写真に元氣付けられました。

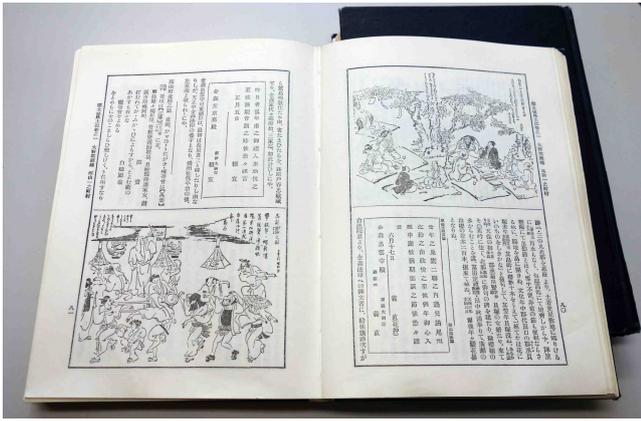
・地区住民の写真にはかなわないと思いましたが、年々良い作品が見られてうれしいです。

# 岩滝の人達は

## 働き者だった

斐太後風土記から見る岩滝

以前広報いわたき39号で、岩井神社本殿が有名な東雲勘四郎の作であり、その経費をどんな産業からの収入で賄っていたのか不思議だと掲載しました。そこで、飛騨高山まちの博物館にお願いで岩滝に関する資料を見せていただきました。資料のうち目に留まったのが左の斐太後風土記です。



p 115

○瀧村 枝村生井。縦一里半、横十八町。高二百五十六石六斗七升六合、御年貢皆金納。焼畑六町三段十三歩、山林段別木数不詳。家六十四戸。人三百九十餘人。  
産物 米百五十三石 稗二百五十石 大麥八石 小麥十五石 大豆四十石 粟二十五石 ソバ十二石 桑八千七百貫目 煙草三百斤 弘法茶三十貫目 楮百五十貫目 荏八斗大 繭百五十貫目 小繭三百貫目 布百二十反 ホタテ百六十間 猪三疋 山トリ百キジ六十八ト五十五。

p 113

○岩井村 縦十三町二十間、横五町三十間、高百八十三石九升二合、御年貢皆金納。焼畑八町一段五畝三歩。山林段別木数不詳。家七十五戸。人五百十餘人。  
産物 米二百二十二石 稗七百六十八石 大麥六石 小麥二十二石 大豆七十二石 粟六十石 ソバ百石 桑一萬四千貫目 麻百八十貫目 煙草三百七十斤 弘法茶十五貫目 麻苧百八十貫目 楮百八十間 材木大島村に同 猪五疋 山ドリ・キジ百八十羽 菅席。

幕末から明治の初めにかけて高山陣屋に勤めた地役人であった富田礼彦の書いたもので、飛騨3郡の415の村について概要や産物などが細かく書かれた2冊のぶ厚い本です。  
第1巻の113〜115ページに岩井村と瀧村の記述（左写真はその一部）があり、分りやすくしたのが下の表です。  
面積・高（石高）・焼畑した面積・戸数・人口が書かれ、次に産物とその生産高があります。石高というのは、年貢（税金）をかけるための評価額のようなもので、今でも固定資産税とい

うものがあるように、所有している屋敷・畑・山林・収穫される産物など全てまとめて村としていくらになるかというものです。岩井村は183石、瀧村は256石となっています。  
年貢はその石高の半分くらいだったでしょうか。社会科で5公5民とか4公6民とか習った覚えがあります。  
年貢を納めるといって、一人が大八車に米俵を積んで代官所（陣屋）まで運んでいくような風景を想像しますが、実際は村方三役（名主・組頭・百姓代）という村を代表する役の人が、村全体の分を皆から集めて納めていました。それも「御年貢皆金納」と書かれているので、産物のどれだけかを売ったお金で納めていたの

でしよう。  
さて、注目したいのは産物（詳細は4・5ページ）と、その生産高で、まちの博物館では、産物と生産高を一覧表に書き出して研究してみえました。  
大野郡の93の村について、産物と生産高を書き出したのが7・8ページの表です。各産物について生産

○瀧村 枝村生井。縦一里半、横18町。高256石6斗7升6合、御年貢皆金納。焼畑6町3段13歩、山林段別木数不詳、家64戸。人390余人。  
産物 米153石 稗250石 大麥8石 小麥15石 大豆40石 粟25石 ソバ12石 桑8700貫目 煙草300斤 弘法茶30貫目 楮150貫目 荏8斗 大繭150貫目 小繭300貫目 布120反 楮柵160間 猪3疋 山鳥100 キジ60 鳩50。

○岩井村 縦13町20間、横5町30間、高183石9升2合、御年貢皆金納。焼畑8町1反5畝3歩、山林段別木数不詳、家75戸、人510余人。  
産物 米212石 稗768石 大麥6石 小麥22石 大豆72石 粟60石 ソバ100石 桑14000貫目 麻180貫目 煙草370斤 弘法茶15貫目 麻苧180貫目 楮15貫目 荏3石2斗 大繭370貫目 小繭750貫目 楮柵180間 材木大島村に同。猪5疋 山鳥・キジ180羽 菅席。

## 大野郡の 幕末～明治2年頃の生産高くらべ

(斐太後風土記による)

産物 単位	ひえ				あわ			えごま	
	米	稗	大麦	小麦	大豆	粟	そば	荳	タバコ
	石斗	石斗	石斗	石斗	石斗	石斗	石斗	石斗	斤
1位	宮村 1325	岩井村 768	三福寺村 180	無数河村 68	宮村 79	岩井村 60	檜谷村 112	日面村 44.5	岩井村 370
2位	山梨村 908.9	大原村 585	七日町村 86	宮村 49	無数河村 75	新張村 43.5	岩井村 100	根方村 9.6	三福寺村 320
3位	中切村 832	二本木村 297	花里村 80	三福寺村 40	岩井村 72	檜谷村 40.1	三福寺村 32	駄吉村 8	滝村 300
岩井村	37位 212	1位 768	54位 6	8位 22	3位 72	1位 60	2位 100	9位 3.2	1位 370
滝村	46位 153	6位 250	46位 8	15位 15	7位 40	5位 25	11位 12	51位 0.8	3位 300

産物 単位	おおまゆ	こまゆ	からむし		こうぞ	こうぼうちゃ	ほた		
	大繭	小繭	桑葉	麻	麻芋	楮	弘法茶	楢楮	布
	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	間	反
1位	池ノ俣村 500	岩井村 750	岩井村 14000	三福寺村 810	駄吉村 250	三福寺村 315	三福寺村 45	宮村 2500	石浦村 300
2位	岩井村 370	三福寺村 598	三福寺村 8800	大洞村 300	岩井村 180	山口村 250	西之一色 40	三日町村 410	下切村 300
3位	法力村 280	宮村 330	滝村 8700	池本村 300	日影村 100	江名子村 200	滝村 30	中切村 250	新宮村 220
岩井村	2位 370	1位 750	1位 14000	5位 180	2位 180	28位 15	5位 15	4位 180	
滝村	4位 150	5位 300	3位 8700			5位 150	3位 30	5位 160	7位 120

**単位** しゃっかんほう  
(尺貫法)

<容積の単位>

1石 = 10斗 ≙ 180ℓ  
 1斗 = 10升 ≙ 18ℓ  
 1升 = 10合 ≙ 1.8ℓ  
 1合 = 10勺 ≙ 180ml  
 木材の容積は 1石 = 10立方尺 = 278ℓ  
 1立方尺 = 1才 = 27.8ℓ

<重さの単位>

1貫 = 3.75kg  
 1斤 = 600g

<長さの単位>

1間 = 6尺 ≙ 182cm  
 1尺 = 10寸 ≙ 30.3cm  
 1寸 = 10分 ≙ 3cm

距離は

1里 ≙ 4km (3.93km)  
 1町 ≙ 109m

記号「≙」は  
約という意味

高の多い順に村を並べて  
 位をつけ、1位から3位を  
 書き出し、下に岩井・滝を  
 並べたのが上の表です。

岩井村と滝村を黄色にぬ  
 ってびっくり。1位から3  
 位までいくつも入っている  
 のです。

岩井村は、稗・粟・タ  
 ば・小繭・桑葉・タバ  
 コ・大繭・麻芋・楮・弘  
 豆が3位。

滝村はタバコ・桑葉・弘  
 法茶が3位。4位・5位に入  
 るものも多くなるのです。

<田畑の面積>

1町 = 10反(段) ≙ 1ha  
 1反(段) = 10畝 ≙ 991㎡ ≙ 10a  
 1畝 = 30歩(坪)  
 1歩(坪) ≙ 3.31㎡

- 「町」のように、長さの単位にも、面積の単位にも使われるものがあるので注意。
- 反を段、歩を坪と書くことがあるので注意。

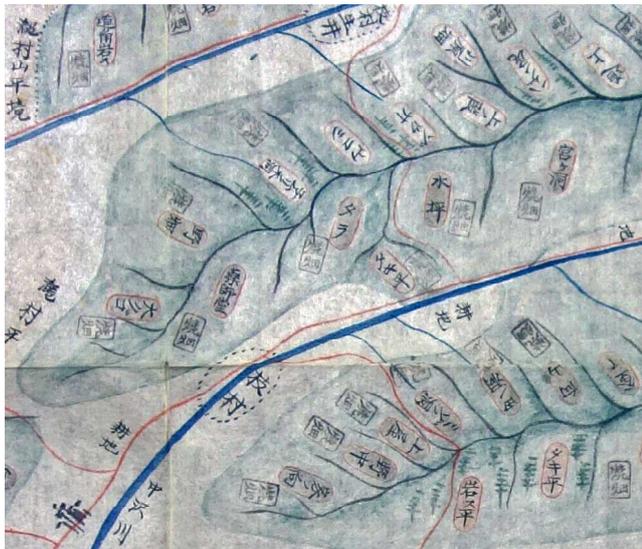
米は品種改良ができていない時代であり、水田面積も少なかったため、ために作ることができず、稗・粟・大豆・そば・小麦といった主食になるものが主だったのです。

その間に養蚕（絹糸の原料になる）と、麻・麻芋（布の繊維になる）、弘法茶・楮（和紙の原料）（薪）・タバコ・布

いっきに産物が増え、かわるわると思われます。



岩井村 山絵図 ↓ 拡大



稗（ひえ）

縄文時代から食べられている日本最古の重要な主食穀物で、草丈は1～1.3mほど。飢饉の際の非常食として、江戸時代に二宮尊徳にのみやそんとくが栽培を奨励したおかげで、天保の大飢饉の際に多くの農民が救われたといわれています。

食べるには白米のように炊くか、白米に混ぜて炊くのが一般的でした。

冷害に強いので、日本全国の間山地などの冷害に見舞われやすい地方で栽培され、明治の初期には全国で10万ha以上、昭和20年頃までは3万ha程度栽培されました。

しかし戦後、稲作技術の急速な進歩、畑作における商品作物生産拡大により、減少の一途をたどりました。

最近では、優れた栄養価を持ち、食物繊維も豊富なことから健康食品として見直されています。



カワラケツメイ  
（弘法茶の原料）

弘法茶はカワラケツメイという草丈30～60cmの植物を乾燥させたもので、古くから利尿作用や便秘解消の健康茶として用いられ、弘法大師が広めたとされる事から「弘法茶」と呼ばれます。花が終わりかけて果実が付き始めた頃に地上部分を刈り取って、よく水洗いした後に天日干しし、その後さらに細かく3～5cm程度の幅に切ってよく乾燥させます。

今日ではダイエットや滋養強壮や疲労回復などの健康を意識する人から注目されています。カフェイン成分がないので、就寝前でも安心して飲め、香ばしいお茶だそうです。今も家庭で作ってみえる方がありましたらお知らせ下さい。



粟（あわ）

アワは縄文時代には既に栽培され、庶民にとっての重要な主食穀物で、戦前までは米と並ぶほど国内で栽培されていました。

しかし、戦後は稲の品種改良により稲が育てやすくなったことで、生産量が激減してしまいました。

現在は、白米と同じくらいのカロリー、ビタミンやミネラルなどの豊富な栄養、貧血予防にもなる鉄、骨や歯の成分となるマグネシウムを含むことでその栄養価の高さが見直され、米に混ぜて炊いたり、アワおこしにしたり色々なレシピが作られています。

ことわざに「濡れ手に粟」があります。

粟や稗を米と一緒に炊いたごはんを食べた経験をお持ちの方がいましたらお知らせください。



菅席

菅

菅は平地の水湿地、池や川などの側に生える植物で、高さは40～100cm。カササゲ・マスキサ・コウボウムギ・カンスゲなど多くの種類があります。葉は細長く、夏に長い花穂を出し、刈り干した葉を編んで蓑や菅笠・縄・席などを作ります。

菅を編んで、むしろなどの生活用品を作った経験のある方がありましたらお知らせください。

前ページに当時のものと思われる岩井村の山絵図を載せました。一部を拡大したものをよく見ると「焼畑」という字が山という山そこらじゅうに記入してあります。焼畑なら燃えた灰が肥料になって、稗やそばを作ることができたのでしよう。

昔の岩滝の人達は、色々工夫して、きつと朝早くから農作業や山仕事に励んでみえたのだと思います。大野郡の中でも生産力の高い村だったために、岩井神社本殿の建築もできたのでしよう。

さて、生産高の表を見ているといろいろなことに気が付きます。なぜだろうと思うことも出てきます。

### 榎（榎とも）

榎は薪のことです。

昔は木が燃料だったので、高山の町では薪がたくさん必要でした。



岩滝小の昔話集「いろりばた」には榎を束ねて川を流す様子が挿絵で載せてあります。榎流しといって、三福寺まで川を流して運んだ様子が詳しく書かれています。道路が今のように広く舗装されていなかったためです。

宮村の榎流しが有名ですが、岩井・滝でも盛んに行われたようです。当時の流す様子を見られた方、あるいは写真など資料をお持ちの方がいましたらお知らせください。



楮



楮は和紙の原料です。

クワ科の落葉低木。高さは2～5m程度。

現在の主な産地は高知県、茨城県。かつては岐阜県美濃でたくさん取れました。繊維が太く長いので、強い紙が作れます。水墨画用紙・書道用紙・和紙人形など幅広く使われます。



かいこ 蚕



まゆだま 繭玉

蚕は5000年以上前、中国でクワコという昆虫を交配して作られました。エサとなる桑を栽培して葉をたべさせて幼虫を育てます。

蚕は卵から孵化すると脱皮を4回行って成長し、7cmくらいに成長すると繭を吐きはじめます。4～5cmくらいに仕切られた部屋へ蚕を移動させると、2～3日糸を吐き続け自分の体のまわりに2～3cmの繭玉を作ります。

繭玉を煮て柔らかくさせてから細い糸を引き出し、何本か撚りながら糸を巻き取って絹糸が作られます。



### 麻苧（からむし）

### からむし織

からむしはちょまとも呼ばれ、イラクサ科の多年草で、古くから織物の繊維をとるために栽培され、『日本書紀』の中に天皇が民に栽培を奨励すべき草木の一つとして挙げられています。

莖はまっすぐか、やや斜めに伸び、高さは1～1.5mになります。

からむしから作られた繊維で織った布は肌に付着しない夏衣として気持ちよく、一度着用すれば他の織物を着ることができなくなると言われています。現在では、着尺、帯、小物などがからむし織で生産されています。

からむしの繊維から糸を作った経験のある方がありましたらお知らせください。

岩井村のほうは滝村より生  
産高が多いのに、石高でみる  
と滝村のほうが多いのはなぜ  
でしょうか。  
岩井村では麻や麻苧（布を  
織る糸の原料）の生産があり、  
滝村にはありません。ところ  
が、岩井村には布の生産がな  
く、滝村は布の生産がありま  
す。岩井村で生産した糸を使  
って滝村で布を織るというよ  
うな分業がおこなわれたので  
しょうか。  
戸数と人数の数値からみる  
と岩井村は1戸あたり6.8  
人、滝村は1戸あたり6.1  
人が住んでいます。これは大  
野郡内でいうと、岩井村は9  
位、滝村は23位にあたり、  
1軒に大勢住んでいることに  
なります。家も大きな家だっ  
たのかもしれない。戸数も  
多く、どこらへんに建ってい  
たのでしょうか。また、家族構  
成は、祖父・父母・子ども  
2〜3人で計7人くらいだっ  
たのでしょうか。いろいろ考  
えてしまいます。

以上、社会科学の素人が調べ  
てみたことなので、皆様気付  
かれた点があれば教えてください。  
さい。また、昔の岩滝のこと  
で、体験されてみえる事があ  
ればお知らせください。

とみた いやひこ  
富田 礼彦 (1811 - 1877)

江戸後期から明治にかけて高山陣屋に勤めた地役人で、移り変わる明治維新前後の高山を最もよく知る人物。

田中大秀に国学を学び16才で高山陣屋の地役人となり、明治維新で飛騨が高山県になると、明治元年(1868)初代の県知事として赴任した梅村速水に仕え、才能を認められて高山県判事(知事の補佐役)に任命されました。

梅村知事は新政府の方針のもとに改革を進めましたが、この政策に不満を持った民衆は、梅村知事の留守を機に蜂起し一揆が起こりました。礼彦の家も打ちこわしの対象となりました。

騒動を知った梅村知事は、鎮圧のため高山へ帰ろうとしましたが民衆に阻止され、負傷して苗木県(現中津川市)に逃げました。知事に就任して1年足らずで暴動が起き、罷免、江戸で投獄の身となった梅村は翌年獄中で病死しました。これを梅村騒動といいます。

明治2年(1869)2月、礼彦は梅村騒動の責任を取って割腹自殺を図りましたが家族に見えられ一命をとりとめました。

失意の礼彦でしたが、梅村の後をついだ第2代の宮原積知事は礼彦を任用し、『斐太後風土記』編纂を命じました。地役人として飛騨の各地を巡検してきた知識と経験があったからでしょう。

そして12月、飛騨3郡の25郷415村の各村々に「当飛騨国後風土記新規出来付、左之類取調可申出事(後風土記を新しく作ることにしたので、調べて提出しなさい。)」という通達が出ます。

調べる内容として、これまでの村の系譜や由緒や土地柄、社寺縁起、仏のうら書、経文の奥書や棟札、古き世の書画や諸道具、譲り状などの文書、絵馬、ふるき跡、名高き地名、古墳墓の類、神社が何神をまつり どんな申し伝えがあるか、寺院跡は何宗でいつ頃廃絶したか、村名郷名郡名はどうしてその名になったのか申し

伝え、草木鳥獣や産業などについてのあらまし、その他珍しいことなどが挙げられました。



そして通達の最後に「右之通至急取調可差出候、此廻状村名下令請命、早々順達留り村より可相返もの也 巳十二月廿五日 高山御役所」(この通達が村にきたら至急調べて、遅れないように提出しなさい。明治2年12月25日)とありました。

昔の飛騨の様子を知ることができる有名な文書に「飛州志(1740頃? 完成1829年)」「飛騨国 中案内(1746年)」などがありましたが、礼彦はさらに正確なデータをもとにした風土記を作ろうとしたのでしょう。

各村の村方三役からの回答は、明治3年1月~6月頃に陣屋へ提出されました。これを風土書上帳といいます。

それをもとに礼彦は執筆に入りますが、飛騨3郡は明治4年11月に長野県松本のほうまで合併して広い筑摩県となり、宮原知事は去ってしまいます。そのため「斐太後風土記」作成の費用が出なくなり、礼彦は職をやめて塾を開いて生計を立てながら執筆を続け、独力で明治6年4月に斐太後風土記を完成させました。

当時の生活の様子や地図や風景などのさし絵が入った手書きですが、後の昭和5年に蘆田伊人氏によって第1巻から20巻をまとめて今の活字の本2冊にされました。

筑摩県は5年近くたった明治9年8月に岐阜県となり、礼彦は明治10年5月に67才で亡くなりました。墓は松倉中学校の下にあります。著書は「運材図絵」など数多くあり、陣屋にある「天朝御用所」の大きな看板は礼彦の書です。



幕末から明治2年頃の 大野郡の村名と、産物・生産高 (斐太後風土記による)

				ひえ		あわ			からむし		こうぼうちゃ	ほた		
				米	稗	大豆	粟	そば	タバコ	桑葉	麻苧	弘法茶	楢柚	布
郷	村	戸数	人数	石斗	石斗	石斗	石斗	石斗	斤	貫	貫	貫	間	反
1	片野村	50	260	275.2	59.9	17.5			80	1950				
2	石浦村	110	530	760.2	117.7	36.1				1500				300
3	千島村	51	210	328.4	17.2	14.3			60	2970				27
4	花里村	106	520	816	3	20								80
5	西一色村	47	200	565	8	16			200	1160		40	7	35
6	上岡本村	60	270	820	45	15				2230				
7	春国村	1		85	3	3								
8	灘郷	下岡本村	54	260	700	22.7	15			3600				○
9	七日町村	172	780	556	1	10								20
10	桐生村	34	150	480	0.3	10			10	300				20
11	本母村	18	80	202	20	7.2								48
12	冬頭村	36	210	525	13	10.8				2500				
13	江名子村	106	470	820	120	48							○	
14	一之町村	521	4780											
15	二之町村	596	3120	一～三之町は、農業より商業・製造業が盛んで、 <sup>わん</sup> 椀や <sup>たらい</sup> 桶・ <sup>たらい</sup> 盤・曲物・陶器・春慶塗などの工芸品、銀・精銅・鉛などの鉱石の関係や、酒・醤油・味噌などの醸造業が盛んでした。										
16	三之町村	555	3280											
17	三福寺村	108	510	830	112	48	3	32	320	8800		弘法茶 45 茶 15	○	165
18	松本村	25	110	334	34	15.5								32
19	松之木村	61	290	505	38.2	25.2		3	16	5200		弘法茶 2 茶2	○	40
20	大八賀郷	五名村	13	60	14	4.2	4							12
21	漆垣内村	97	470	600	100	32			180	800				85
22	大洞村	21	80	140	20	10	1	0.5		300				20
23	塩屋村	49	280	260	104	20			20	5300				54
24	山口村	82	400	560	96	16			80	6800		3		90
25	大嶋村	6	50	6	52	4.8				800			100	
26	岩井村	75	510	212	768	72	60	100	370	14000	180	15	180	
27	滝村	64	390	153	250	40	25	12	300	8700		30	160	120
28	山口村	17	90	140.4	30.6	7.4	2.1	1.5		1108				40
29	町方村	107	460	728	56.5	19.8	6.23	4.4					○	39
30	坊方村	84	460	650	120	32	1.5	1		5050			○	84
31	大谷村	20	140	150	125	5.8	1.2	0.8	10	2670	30		○	30
32	小野村	31	160	2.2	36.5	7.2	1.5	1.4	35	2570				15
33	根方村	24	140		50	18.3	19.2		12	3720				48
34	白井村	17	90		42.5	8	2	6	3	1200	50			20
35	蘆谷村	10	50		20	3.2	0.6	4	5	1200				10
36	小八賀郷	板殿村	19	110	11	23	2	2.2	8	2325				20
37	日面村	30	180		169.1	24.3	3.5	25						30
38	日影村	12	70		82	15	2.5	19		1200	100		薪コ口 14	22
39	駄吉村	24	120		116	30	10	30		3500	250			24
40	塩屋村	7	30		28	10	1.6	5.2			50			8
41	旗鉾村	40	230		120	14		15.2		1200	70			40
42	岩井谷村	29	160		121.5	6	4	12.7		500				
43	池ノ俣村	10	30		60	2	0.8	1.5		100				12
44	久手村	15	70		121.2	2.8	1.6	12		200				16
45	瓜田村	25	140	66	6	10	2	6	50	1300			20	50
46	法力村	28	150	190	80	25	1.6	4.1	60	1580			10	40

郷	村	戸数	人数	米	稗	大豆	粟	そば	タバコ	桑葉	麻芋	弘法茶	楮	布
				石斗	石斗	石斗	石斗	石斗	斤	貫	貫	貫	間	反
47	殿垣内村	17	100	243	50	10	2			1480			12	51
48	小木曾村	16	100	165	24	6.2	1.8		40	614		5		20
49	下坪村	14	60	153.7	78.8	11.1	9.7	2.2		120				30
50	大萱村	36	170	240	61.1	8.2	2.12	1.8	40	4000		20	80	
51	桐山村	27	140	160	60.4	10	6	1.2		1665				60
52	細越村	19	90	150	21.6	6	6	2		1320				36
53	新張村	69	330	503.7	89.2	28.1	43.5	20.6		2737				120
54	下保村	33	210	240	60	16.4	8	6.4		3240		茶1		
55	宮村	230	1300	1325	261	79	39	23		6400			2500	30
56	山梨村	36	230	908.9	100.9	5	2.8	0.5		750			○	38
57	久々野村	82	510	236	175	47	4.5	1		1800				80
58	無数河村	109	660	247	132	75	5	1.2		1700				120
59	引下村	18	100	9	20	1.8	2	0.8		110				20
60	小坊村	33	210	10	25	1.8	2.5	0.7		150			2	50
61	木賊洞村	12	80	3	10	0.8	1	0.3		80				11
62	長淀村	6	30	2.5	12	0.8	1.1	0.4		50				8
63	渚村	39	250	30	52	3.1	3	0.5		940		茶3		37
64	有道村	17	90		10	1		5						
65	阿多粕村	9	60	2.5	10	1	1.1	0.4		80		茶0.7		7
66	前原村	13	50	72	8	2	0.5	0.2		570			○	30
67	赤保木村	30	170	200	12	10		0.2		650				100
68	上切村	40	190	420	32	10		0.6		830			160	140
69	中切村	48	244	832	31	12	0.8	2		4070			250	72
70	下切村	69	370	728	60	20	2	6						300
71	下林村	75	400	580	20	24.8		1.1		1300				70
72	山田村	72	310	680	32	16.4				1200				120
73	下之切村	48	260	280	6	12	8	0.8		800				60
74	新宮村	106	510	480	48.4	28.8		1		1300				220
75	八日町村	60	250	408	24.4	16.4		0.5		1100			○	65
76	三日町村	66	320	311.2	30			0.4		1500			410	55
77	牧ヶ洞村	109	570											
78	藤瀬村	59	320	205	150	16	5	10		1800			○	30
79	福寄村	49	210										○	10
80	三ツ谷村	85	390	159	84	12	1	2	200	1800		11	○	120
81	下本村	21	121	30	68	4.6				830			薪コ口6	36
82	坂村	6	20	15	12.8	1.4				250			薪コ口2	12
83	有巢村	39	250	48	288	14	8.3	2.8		1500				60
84	二俣村	5	40		20	2	2	1.6		50				10
85	中野村	3	30		20	0.8		1.2		100				10
86	櫛谷村	33	250		160	8.2	40.1	112		200				20
87	大原村	43	370	8.5	585									50
88	夏厩村	19	110	47.4	153	7.2	5.6	3.6		425		4.6		80
89	上小島村	19	120	30	170	14.8	2.2	10.2		718				82
90	二本木村	31	200	109.8	297	28	2.1	5.7		810				135
91	池本村	36	230	110	178	26	0.4	2.2		2800				50
92	江黒村	16	100	72.4	104	12		0.3				茶150 斤		40
93	大谷村	19	134	62	98.8	11.2	1	0.6		700		茶200 斤		40

※ 現在下呂市になっている山之口村と、白川郷（荘川・白川）は大野郡だったが、この表には加えていない。

※ 国府と丹生川の荒城、上宝方面は吉城郡だったのでこの表には無い。

※ 朝日村と高根村と久々野の朝日寄りには益田郡だったのでこの表には無い。